

VISION 2020

文善進世界会長ご夫妻の主礼で「宇宙聖和 3 周年記念特別祝福式」 真の父母様が日本に特別の恩賜



天に栄光と喜びをお返しする忠孝家庭となれ!

真のお父様の聖和3周年を1ヵ月後に控えた7月31日、韓国京畿道加平市の清心教会において、文善進世界会長・朴仁涉世界副会長ご夫妻を主礼として、「宇宙聖和3周年記念特別祝福式」が執り行われました。数組だけで祝福式が行われるのは真のご家庭以外では異例のこと。今回の祝福式は、真のお父様の聖和3周年に向け、全世界の祝福家庭の精誠の土台の上で与えられた祝福であり、特に母の国・日本に注がれた、真の父母様の限りない愛情と恩賜であったと言えます。

今回の祝福式は、真のお母様が、韓国・清平の天正宮博物館で数年間公務を務めてきた祝福二世の男性職員に対し、その祝福を強く望まれ、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長に彼の相対候補を探すことを願われたことに端を発します。日本統一教会の家庭教育局が、速やかに適切な相対候補を探して個々に状況を確認し、候補者の情報を提出したところ、わずか数日のうちに「真のお母様がマッチングを決められた」という連絡を受けました。7月22日のことです。

マッチングはその1組では終わりませんでした。今回の祝福式に「3組」を祝福されるということで、最終的には、二世の韓日カップル1組と、一世の日日カップル1組が真のお母様のマッチングによって結ばれ、また、既に約婚が決定していた二世の日日カップル1組を加えた計3組が、この度の特別な祝福の恩恵に与ることとなりました。3組のうち5人が日本所属、または日本国籍をもつ候補者です。それは、日本にとっての大きな恩恵でもありました。

お母様は3組の祝福家庭の誕生を心から喜ばれ、「1日でも早く韓国に来て備えなさい」と言われましたが、あまりに早急な話であるため、簡単ではありませんでした。必死にスケジュールを調整し、事前に入国して交流できたカップルもあれば、前日の7月30日までに何とか駆けつけ、空港で初めて挨拶を交わしながら、宿舎に直行したカップルもいました。

「なぜこの時期に祝福式が行われるのか」「どうして私たちが選ばれたのか」「何の資格があってそんな場に臨めるのか」……。各々がそうした様々な心情を抱く中、7月30日午後3時、清心国際青少年センターに3組のカップルが集う中、教育の場がもたれました。(3面に続く)



①代表報告祈禱を行う宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長 ②聖水式を行う文善進世界会長ご夫妻 ③主礼の文善進世界会長ご夫妻 ④天正宮博物館で行われた祝賀午餐会 ⑤韓日カップルが真の父母様に花束を贈呈 ⑥み言を語られる真のお母様 ⑦祝歌を披露する韓日家庭の日本人女性



最初に、佐野邦雄家庭教育局長が開会の辞を述べ、祝福式・聖和式の意義と共に、真のお父様の聖和後3年間の侍墓生活を越えて行こうとするこの時期に、祝福が与えられることの恩恵を語りました。

さらに、韓国・世界平和統一家庭連合の洪聖福家庭教育局長が、祝福の意義と価値の講義を行い、その後、同連合の柳慶錫会長をお迎えして聖酒式を挙行。柳会長は「今回の祝福式は3組に対する祝福式ということを超え、全世界の祝福家庭と70億人類に対する恩賜であり、新しい時代を開く出発点である」と激励しました。

そうして迎えた翌31日。500人近くの祝賀客が駆けつける中、清心教会においてこの3組のためだけの祝福式が行われました。

数組だけで祝福式が行われるのは異例のことであり、また天の急な招請に、参加カップルも皆、感謝の気持ちを抱くと同時に、驚きや戸惑いを感じていたようでした。しかし、この3組の祝福には、天の深い計らいがありました。

聖和より3年間というのは、真のお父様を偲び、自らの不足であった過去を悔い改める期間でもありました。この度、真のお母様は全食口が真の父母様の心情と一つとなり、新しい出発

をしていく機会が必要であるとされ、祝福式を行う運びとなったのです。

さらに、前日30日は聖和3周年からちょうど1ヵ月前に当たり、その日は奇しくも、文善進様が40歳の誕生日を迎えられた日でもありました。今回の祝福式は、真のお母様が聖和3周年を越え、次の時代の摂理を出発していく上で、善進様の家庭を立てて行くための基台として行われたものであると言えます。善進様が祝福式の主礼を務められるのは今回が初めてでした。

31日の式典は、「一世圏・二世圏を代表したこの3組が天に喜びと栄光をお返しする忠孝の家庭となれるようお導きください」という宋龍天総会長の代表報告祈禱で始まり、主礼である文善進様ご夫妻を会場にお迎えしました。

その後、3組の新郎新婦が祝賀客の歓迎を受けながら1組ずつ入場し、主礼である文善進様家庭を中心として、聖水式、成婚問答、祝禱、指輪交換、成婚宣布に至るまで、全てが天の導きの中、恩恵深く執り行われました。何よりも、参加した3組がその恩恵を感じた時間であったに違いありません。最後は、新郎新婦からの花束と礼物の贈呈、祝歌の披露、億万歳三唱をもって、式典は閉幕となりました。

その後、天正宮博物館3階の訓読室に会場を移し、真のお母様をお迎えして午餐会の場がもたれました。柳慶錫会長が司会を務め、代表報告祈禱が捧げられた後、日本を代表して徳野英治・日本統一教会会長が祝賀と感謝の言葉を述べました。

徳野会長は、今回祝福に臨んだ候補者一人一人の紹介を丁寧に、またユーモアを交えながら語り、その後、金榮輝先生が「今日の祝福は喜びの日であると同時に、真のお母様の深い考慮と決断があったことを知ってください」と、今回の恩恵に込められたお母様の心情を証しました。

それから、新郎新婦の家族を代表し、日韓2家庭のご両親が、今回の祝福の恩恵に対する感謝の言葉や証しを述べ、その後は3組の新郎新婦に向けた歌やダンス等の心温まるパフォーマンスと続き、参加者はひとしきり、お祝いの宴の場を楽しみました。

真のお母様は今回の3組の祝福を心から喜ばれ、1組1組から直接、家族の紹介、挨拶を受けられながら、「二世、三世の子女の模範となる生き方をしなければなりません」「私はあなたがたを通して多くの人々を祝福したのです」「あなたがたは真の父母を通して新しい生を得た一人一人です。親の前に孝行を尽くす子女になるのですよ」と激励され、また祝福してくださいました。

こうした予期せぬ恩恵と天の大きな期待の前に、動揺や戸惑いを感じていなかった家庭は1家庭としてありませんでした。3組が3組とも、「私たちにはこうした恩恵を受ける何の条件もありません」と口々に述べていました。しかし、そもそも、私たちのうち誰ひとり、こうした恩恵を受ける資格など備えていないでしょう。もし天の前に条件があるとすれば、この3組が自らの様々な事情を乗り越え、天の願いに馳せ参じたという、その一点にあったに違いありません。

また、今回の祝福は、全世界の祝福家庭が聖和3周年に向けて捧げてきた、そうした精誠の土台の上に与えられた恩恵であると同時に、それはまた全世界の祝福家庭と共に、天の祭壇に捧げられた精誠の供え物であったように思われます。また、日本の祝福家庭がこの恩恵に与ったことを考える時、この祝福はまた、何よりも、母の国日本に対して注がれた、真の父母様の限りない愛情と恩賜であったと言えます。

こうした天の大きな恩賜の前に、深い感謝を捧げ、新たな決意をもって3周年を迎えていけるよう、今一度、自らの心情を整えていくと共に、この度、真の家庭の基台として立てられたこの3組が、天の前に本当に模範的で幸福な家庭を築いていけるよう、共に祈っていくことが願われています。

聖和 3 周年に向けて 1000 組祝福勝利へ

南東京教区で 2 回目の祝福式



南東京教区主催の「2015 天地人真の父母天宙祝福式」が7月20日、堀正一・守子教区長ご夫妻を主礼に迎えて挙行され、既成家庭17組と独身祝福16組、祝賀客を併せて400人が集いました。

南東京教区では、真の父母様の願いである「神氏族メシヤ430家庭祝福勝利」に向け、8月30日の聖和3周年までに1000組の祝福を目標にこの1年間取り組みを続け、これまでに計953組を達成。今回の祝福式もその一環で、昨年11月に続いて2回目となりました。

式典に先立ち、午前9時30分から聖酒式が行われました。厳かな雰囲気の中、主礼の祝祷の際には、夫婦が互いに手を重ねて臨みました。夫婦そろって聖酒式に参加できた幸せな気持ちが会場を満ち、参加カップルは緊張から解放されて祝福式に向かうことが出来ました。

介添人に続いて、主礼の堀教区長ご夫妻が入場。堀教区長は「私たちは神様から頂いた命を代々受け継いできた愛の結実体です。この愛を永遠につなげていくには、神様の真の愛と一つになる結婚、即ち真の父母様による祝福しかありません」と祝福の意義を述べました。

聖水式、祝祷に続き、聖婚問答では、「イエー！（はい）」の声が会場に響き渡り、堀教区長の力強い聖婚宣布の声で、参加カップルは生まれ変わったことを自覚し、新しい人生の出発をしました。

①約400人が参列した祝福式 ②真の父母様の等身大お写真と記念撮影をするカップル ③四世代にわたって祝福家庭として歩む堀正一教区長とご家族 ④祝賀午餐会で証しを行う参加カップル

来賓の祝辞では、「祝福家庭」である元国会議員が、祝福後は家庭が幸福に満ち溢れ、自分の子供にも勤めていると証し、参加者に大きな感動を与えました。

閉幕後、真の父母様の等身大のお写真が準備されたコーナーでは、カップルが父母様と一緒に記念写真におさまりながら、祝福式に参加できた喜びを分かち合っていました。

二部の祝賀午餐会では、式典に参加した夫婦1組が証しを行いました。当初は強く反対していた夫が、様々な出来事を通じて教会に対する見方を180度転換。さらに、夫婦で祝福を決意する中、認知症の親が回復し、両親とともに祝福式に参加できたことを深く感謝していました。

最後に、堀教区長ご夫妻が、三代で暮らす家族全員を紹介しながら挨拶。真の父母様の恩恵のもと、四代で祝福家庭として歩む姿に、参加者は大きな希望を感じました。

南東京教区は、祝福伝道の取り組みを1年がかりで積み重ね、昨年11月の第1回祝福式までに累計で203組、今回の祝福式までには750組、合計で953組を達成。聖和3周年までには、1000組の祝福勝利を目指しています。

今回の祝福式は、これまで以上に多くの食口たちが一歩を踏み出し、祝福伝道の実践に動いたことが大きな特徴で、さらなる飛躍に向かって再出発する場となりました。

三代圏祝福を完遂、神氏族メシヤの出発を！

宮城教区の祝福式に 235 組参加



①祝福式後の全体記念写真 ②メッセージを語る主礼の田中敏明・第2地区長 ③祝福式に参加したカップルたち

50年前、真のお父様の聖地決定の際、「天國花仙台」の揮毫をいただいた東北の中心・仙台において7月26日午前、第2地区の田中敏明地区長ご夫妻の主礼のもと、宮城教区の「2016 天地人真の父母 天宙既成祝福式」が挙行され、既成家庭11組と独身224組、併せて235組の祝福家庭が誕生しました。

今回の祝福式は、田中地区長が「真のお父様の聖和3周年を前に三代圏祝福を終えないと、神氏族メシヤの出発ができない。全家庭が最高の精誠をもって祝福式に向かいましょう」との方針を発表したのを受け、2カ月前から取り組みを開始しました。

互いにリストアップした祝福候補者を祈り合い、毎日夕方には、取り組みを確認しながら進みました。「祝福を通して、仙台に基盤をつくりたい」という田中地区長の願いのもと、「一対一伝道の本質は、最も愛する人に、最も大切な人に、ご父母様を証し、私の身近にいる夫、妻に尊敬されることである」と、内的サタン分別と生活指導を実施。また、「聖和の意味を正しく受け止めないと、神氏族メシヤに向かう覚悟が定まらない」との田中地区長の強い決意に、諦めかけていた食口の心が変わっていきました。

当日は、早朝から県内各地より新郎新婦と祝賀客などを併せて450人が参加。司会による開会宣言の後、来賓の国会議員

が「ご参集の皆様が変わらない愛を誓い合い、永遠の夫婦として再出発されることを心より祝福いたします」と祝辞を述べました。

主礼の田中敏明地区長が温かい祝福のメッセージを贈った後、代表の5家庭が壇上。聖婚問答、聖水式、聖婚宣布と続いた式典は、伊東保範・仙台教会長の億万歳で終了しました。

午後の祝賀会では、家族バンドが「ありがとう」「夢見る人」の2曲を披露。仙台教会聖歌隊の「主よ 感謝します」の讃美の後、来賓の県議会議員のサクソ演奏が会場を盛り上げました。

最後に、代表して3家庭が壇上。「これから二人で笑顔の絶えない家庭を築いていきます。親に喜んでもらえて嬉しかったです」（信仰二世の若いカップル）、「今日、夫は何も分からないながらも、私を信じて付いて来てくれました。夫に感謝します」（1カ月前、ご主人に信仰を証した婦人）、「一度は、教会を離れましたが、今回、祝福式に参加でき、既成祝福家庭として戻って来ることができたのは、真の父母様が見守って下さっておられたからだと思います。これからは道を離れることなく、しっかりと夫婦で歩いて行きます」（独身時代に教会に通っていた信仰二世）など、それぞれが涙ながらに証しました。

50年前に真の父母様が蒔かれた愛の種が、花を咲かせる時代となったことを実感する祝福式でした。

心情文化共同体を目指す 「二世家庭会」

真の家庭の価値共有のため全国で発足

祝福を受け、家庭を出発する祝福二世の数が大幅に増加する近年、全国各地で二世家庭会が発足しています。全国祝福家庭総連合会には、一世の祝福家庭がそれぞれ家庭会を組織し、互いに連携をとって天のみ旨を発展させるべく活動していますが、二世家庭会もそこに位置づけられます。

祝福を受けたとはいえ、大半が社会に身を置く二世達にとって、教会を中心に推進される摂理に“主人意識”を持ちにくく、客観的になってしまう傾向があります。

一方、家庭生活では夫婦関係や子女教育という普遍的テーマと誰もが向き合います。「良き夫、良き妻になりたい」「子供を良く育てたい」「幸せな家庭を築きたい」——。そんな思いから、様々な情報を求めるようになりますが一般社会の規範や実践方法に馴染んでいくと、今度はその源流や思想的傾向、本質に目が向くようになり、最終的に統一原理や信仰生活を持つ普遍的価値との“再会”に至るのです。

「理想相対」「三代圏家庭理想」「ために生きる真の愛」などの原理用語が、自らの家庭で実感を伴って迫ってくるようになるのです。

統一原理とは、人類の救済と恒久平和という壮大なテーマを実現する原理であると同時に、「家庭原理」でもあります。それに気付いた二世家庭が、原理の目的とも言える「真の家庭」の価値を学び共有する場が二世家庭会です。

一方で、一般社会で増加する離婚や家庭問題の実態を目の当たりにすることも、二世家庭の目をもう一度教会に向けさせる

一因となっています。

各地で二世家庭会の必要性が叫ばれるようになり、全国組織としての二世家庭会が発足しました。梶栗正義会長、堀正一副会長、二世第一期の兄姉達が常任役員として名を連ね、事務局は桜井正上・本部祝福教育部長をはじめ、家庭教育や青年学生運動を担当する二世が運営しています。

地方では2013年から2015年7月までに、地区で二世家庭会が発足したのが8、9、11、13の各地区。教区では宮城、南千葉、南東京、東東京、多摩東京、北東京、東神奈川、北愛知、東大阪、西大阪、南大阪、岡山、福岡、大分、鹿児島島の15教区です。

『祝福家庭』2015年夏号の企画「進む二世のコミュニティづくり」で、梶栗会長は「真のお母様は、『あなたたちは祝福二世として6000年の時を経て初めて生まれた純水な水です』と語っておられます。ところが、純水な水がその場に留まっていれば、その清らかさを保ち、維持することができないのです。私たちは地の多くの水を導き、故郷である大海、神様の真の愛の懐へと帰っていくのです。二世家庭会の活性化を通して、祝福家庭全体の心情文化共同体の形成と、VISION2020の実現に向けて、尽力したいと思えます」と述べています。

二世家庭会が心情文化共同体の基地となれるよう邁進していきます。

(二世家庭会中央会事務局 田中 君敏)



①「第9地区二世家庭会発足集会」の参加者（6月28日、大阪教会）
②特別メッセージを語る梶栗正義・二世家庭会会長
③懇談する二世家庭



“真の父母様を証したい” 祝福二世の純粋さが青年伝道を牽引

「高知教会成和青年部」伝道実践レポート

高知教会の成和青年部では4月から新規伝道が始まりました。高校を卒業後、4月から新たに成和青年部に加わった祝福二世は16人います。

青年の伝道実践者は21人、うち祝福二世は15人で、4月から新たに5人が加わりました。実践者のほとんどが実践メンバーになってから2年以内ですが、意欲的に伝道に向かっています。

全体を5班に分けて、班長（全員祝福二世）を中心に1カ月の伝道目標、活動計画を立てて出発。実践者の主流が一世から二世に移行する中、5月と6月は祝福二世が新規対象者を多数伝道し、青年部全体のほとんどの新規受講を占めるという結果を残しました。

友人伝道では、対象者をリストアップして、本人との関係や対象者の現状から優先順位を決め信仰を証して教会に案内します。

初期の段階では、教会内の青年学習室に来てもらうほか、講演会、青年礼拝、誕生日会、スポーツ、ボランティア活動など、成和青年部主催の各種イベントを紹介し、教会外でイベントを行った場合も、終了後は教会に案内しています。

街頭伝道は、主に高知駅前で行い、紹介用のパンフレット1枚を持って成和青年部の活動などを紹介。マニュアルはなく、メンバー本人がみ言を通して感じた心情と価値観を訴えます。

今年3月末、新たに就任した石尾豪志高知教区長の「1日3名声かけ伝道」の証しに刺激を受け、時間が無い時も毎日最低3人には声をかけると、そうした中から確実に新規受講者が誕生しています。

中途半端に証しすることなく、堂々と自分の信仰、教会、原理を証しすることに挑戦しています。

伝道では実質の結果が求められますが、伝道を通して培う愛と、成長の実績を何よりも大切にしています。天の父母様、真の父母様との縦の一体が軸であり、二世が天の勝利圏を相続するとき、一世を超える純粋な愛の心情と実体が現れます。それは途方もない希望です。

5、6月に導かれた新規受講者も真の父母様の勝利圏によって導かれた出会いでした。対象者に来教時の動機を尋ねると、伝道実践者の純粋さに惹かれて来た方がほとんどです。二世たちは、伝道対象者を通して愛の成長の道が与えられたことを感謝し、必死に対象者に向かっています。

二世としての主体的信仰の確立はこれからですが、「天の父母様、真の父母様のことを証したくてたまらない」という純粋な動機の発露が、伝道の近道であることを実感しています。

真のお母様の心情圏と一つとなり、青年圏の大きな刺激となられるように邁進していきます。

(高知教区成和青年部長 高橋 功)



①高知駅前で行われた伝道をする成和青年部メンバー
②野外で行われた青年礼拝の参加者



子供の心身の健やかな成長のため 伝統的結婚を守ろう

福岡で「日本国際指導者会議」開催



①福岡市内で行われた「日本国際指導者会議」(7月26日) ②主催者挨拶を行う宋龍天・UPF日本リージョン会長 ③講演を行う菊谷清一・UPF日本事務総長

世界に例を見ない規模とスピードで進行するわが国の高齢化と、出生率低下にともなう少子化がもたらす国家的な危機打開の方策を探る「日本国際指導者会議 (ILC-Japan) in 福岡」(主催：UPF・平和大使協議会、共催：福岡県平和大使協議会)が、「家庭の危機と再生へのビジョン：少子化非常事態と日本の選択」をテーマに7月26日、福岡市で開催されました。

開会にあたり、主催者を代表して宋龍天・UPF日本リージョン会長が「かつて西欧人を感動させた良き日本の家族の姿は、近代化が進む中でどこに行ってしまったのか？それは決してなくなったわけではなく、西洋からやって来た個人主義の価値観の影響を受け、日本の伝統的価値観が危機に瀕するようになったという事実を否定できない。日本が家庭の価値観を取り戻す課題に『解決のモデル』を見出すことができれば、アジアの多くの国々への光明となる」と挨拶しました。

セッション1で、菊谷清一・UPF日本事務総長は、「家庭の危機と再生へのビジョン」と題して講演し、日本のおかれている少子化、人口減少の現状はまさに非常事態であると指摘。1930年代から少子化に取り組んできたスウェーデンとフランスの政策の違いを紹介しながら、「個に偏重したスウェーデン・モデルは結婚・家庭制度そのものを崩壊させた」と言及しました。

また、日本の少子化の最大の原因は「晩婚化と非婚化」であることを明示し、未婚者には結婚の意義、希望を知らせ、既婚者には夫婦合の大切さを伝えることが必要であり、それを国や行政が法律、制度で後押ししていくことが理想であると提言。あくまでも家族の価値観を重視する「日本モデル」による国の再生が求められていることを強調して、話を締め括りました。

セッション2では、大学教授が「家族の機能を強化するための法制度とは？」(なぜ「結婚」は守られねばならないのか)と題して講演。最初に、渋谷区同性カップル条例の基本的問題点として、「個別の具体的問題点と一般原則とを混同していること」を挙げました。

また「子供は本来、男女間でしか生まれえない。そして何よりも子供の心身のすこやかな成長を図るためには、男女間の婚姻の優位性を法律面で守ることが大切」との見解を示しました。

2人の講演の後、最後のセッションでは、教育委員会スクール・カウンセラーをコーディネーターに、パネルディスカッションが行われ、大学教授、県議会議員など3人のパネリストがそれぞれの専門分野について意見を発表。その後、会場からの質問にそれぞれのパネリストが答える形式で活発な意見が交わられました。

“自分が変われば、周りが変わる”

西神奈川・相模原教会が「讃美大復興書写講演会」



7月14日、西神奈川教区相模原教会が主催し、「讃美大復興書写講演会」が神奈川県座間市内の会場で開催され、約1000人が集いました。

1部のエンターテインメントでは、小田原教会壮年部のバンド「西湘ブリーズ」が「涙そうそう」を演奏。続いて、教区聖歌隊による「平和の為の祈り」「千の風になって」等の歌声に、会場は明るく優しい雰囲気に包まれました。

2部では、6月に行われた家庭書写会の記録映像を視聴。体操教室と共に行われた体操書写会、絵手紙教室で行われた絵手紙書写会、お寺で座禅を組みながらの書写会、城址での書写会等が紹介され、会場に笑いの渦が起きました。

体験談を披露する時間では、相模原教会のFさんが「家庭書写会を通して嫁姑の関係が良くなり、30年来の腰痛も治りました。大好きだった亡き主人と霊肉祝福も受けられ、感謝です」と証しました。

また、小田原教会のSさんは、40年間の結婚生活で夫婦の会話がほとんどなく、夫は無口だからと思っていたけれど、書写を通して「自分が変われば、周りが変わる」と学ぶ中で、夫が無口なのではなく、自分が夫の話を聞いてあげなかったことに気づき、それからは意識して夫の話を聞くようにすると、夫は子供が母親に報告するように話し出したという笑いあり涙ありの体験談を披露し、会場は温かい雰囲気に包まれました。

主催者挨拶では、刑部徹・第6地区長は「家庭書写会を天国にしましょう」と語り、「心の書写」の指針を強調しました。

その後、浅川勇男先生が「神様と私たちは、父と子の関係」と題する講話を行いました。

浅川先生は、文鮮明先生が「どうしたら本当の幸せになれるのか？」と深刻に問いかけられた結果、「人は神様が私を愛し

①講演を行う浅川勇男先生 ②美しい歌声を披露する西神奈川教区聖歌隊 ③「心の書写」を行う参加者

ていると全身で感じられた時、即ち、父(神様)の真の愛に目覚める時、本当の喜びを感じることができる」という答えを得られたという、文先生の証しを紹介。さらに神様の3つの愛を、「完全投入の愛(与えて忘れる愛)」、「変わらない愛」、「永遠に愛し続ける愛」として、例題を交えながら解説。参加者は統一原理を心情的に肉付けして語る浅川先生の講話に、感銘を受けました。

次に、書写用紙奉納と書写の時間が持たれ、全体で「虹をかけよう」を歌って2部を終了。

3部は恒例の抽選会の時間。今回の賞品の中にはタブレット端末、自転車という伝道グッズも登場し、浅川先生と刑部地区長がくじを引く度に歓声があがり、当選者には会場全体から祝福の拍手が送られました。

深いメッセージと恩恵の交換で、神様の愛に包まれた恵み多き一日となりました。

「永遠なるふるさと」に至る道

イヘオク 李海玉先生のメッセージ

このメッセージは7月22日、熊本教会で行われた「真のお父様聖和3周年40日精誠及び神氏族メシヤ勝利熊本教区特別集会」で、李海玉先生（宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長夫人）が語った内容を翻訳し、整理したものです。



講話を行う李海玉先生

ここに来る途中、飛行機の中から熊本の景色を見たらとても美しかったですね。

私はいつも説教の題目をつけませんが、今日は特別に「永遠なるふるさと」と題して話してみたいと思います。

お父様は生前、釣りをたくさんされました。2000年前にイエス様も海辺で生活され、弟子たちの多くが漁夫でした。お父様が海に出て釣りをされたのは、自然における深い祈りの中から天の父母様と共感される時間を持たれていたのだと思います。

私はある日、鮭のドキュメンタリーを見ました。鮭は成長すると、自分が生まれた故郷に戻るために、すべてのエネルギーを使って3000kmを超える距離を泳ぎ、生まれた川を溯っていきます。鮭がそこまでして自分の生命の危険をも顧みず、最後のエネルギーを使いながら自分の故郷に戻る、そのような聖なる本能はどこから来たのでしょうか。

私たち人間は万物の霊長と言いますが、私たちが本性を忘れてる姿を見ると、私たちは果して動物より立派か、自然より優れているのかと考えさせられます。

私たちはあまりにも貴いみを学んでいます。原理がなければ、私たちの本性が何かということも知らなかっただろうし、私たちが何を忘れ、何を探し求めているのか、私たちはどこから来てどこへ向かうのか、私たちに父母がいるのかいないのかといったことを知らずに、ただ孤児のように寂しいと思いながら、地上の生活を終えていたことでしょうか。天の父母様に会わなかったら、人間は孤独から解放される道がないのです。

「人生は流浪する道（流浪者の道）である」という韓国の諺があります。多くの方がそのような心で生きています。しかし、私たちが旅人のような生活をしたとしても、故郷がある人はそうでない人とは違います。故郷という目的地がある人は疲れを感じず、決して諦めることはありません。

聖書の中で、イエス様がサマリアの女の話をしたところがあります。イエス様はこの女に「水を下さい」と言われました。女は「なぜユダヤ人のあなたが異邦人であるサマリアの女に水を下さいと言うのか」と聞きます。イエス様は「あなたが、私が誰かを知ったならば、私があなたに水を下さいと言う前

に、あなたが私にまず水を下さいと言うはずですよ」、「あなたの水は乾くが、私の水は永遠に乾くことのない水である」と語られました。皆さんならこの意味が理解できるでしょう。

今、教会では「伝道をしなさい」と言いますね。私たちがやることは伝道しかありません。伝道がなければ、何を生きていくのでしょうか。

私は宋総会長と何処に行っても、伝道の話ばかりします。例えば、パリスタの資格を取ってコーヒーショップをすれば人を伝道できるのではないかと、いうように。私たちはただ平信徒となって、神氏族メシヤの使命を果たしながら生きていきたいと思っています。神氏族メシヤの道を楽しんでほしいというのが私たちの願いです。

イエス様を見れば、一つのヒントが与えられます。イエス様は生きていたときは弟子を立てることができませんでした。復活された後は、弟子たちに会い、まず食べさせるようになさりました。弟子が魚を獲れなかった時、たくさんの魚を獲って下さったのです。

お父様も訓読会のときには、いつも飴やチョコを下さり、歌や踊りをされました。イエス様とお父様の二人の主が、伝道の方法を見せて下さっています。

問題は私たち食口がその通りにできていないということです。今から具体的な計画を立てて、「永遠なるふるさと」、天の父母様の前に行くことのできる道を考えていかなければなりません。

私たちは永遠に生きることはできません。しかし、「死」というのは祝福です。死があるからこそ、私たちの生活は貴い、意味あるものとなるのです。私たちが地上の生活を終えて天の父母様の前に行ったときに、何をプレゼントするのでしょうか。

お父様が最後に下さった祝福の祈りは、神氏族メシヤの使命を果たすことでした。そのために、皆さんの残された生活が毎日楽しく意味あるものとなる時、初めて私たちは幸せが何かということを経験することができます。何が幸せかを経験することで、天の父母様の前に行くことのできる資格が持てるのです。

全国の伝道の証し

VISION2020の勝利、神氏族メシヤの使命完遂を目指し、伝道の最前線で歩んでいる全国の祝福家庭・統一食口の証しを紹介します。

両親が書写から祝福式に参加

大分教区 大分教会 大和 理恵

最初は5月17日の書写大会に、娘が「じいちゃん、ばあちゃん！ 合唱団がステージで歌うから、見に来てね！」と誘って来たところ、両親からすんなりOKの返事をもらいました。両親は「浅川勇男先生の講話はとても良かった！ 為になった！」と反応もよく、また娘が大勢の前で歌っている姿を見られたのがとても嬉しかったようです。

この書写大会をきっかけとして、両親は毎日欠かさずに書写を続けるようになり、それから1ヵ月後の区域書写会にも参加しました。

両親ともに口を揃えて「朝起きて、一番に書写をすると気が引き締まって気持ちがいいわー！」と書写の良さを実感して喜んでいます。

私は書写を通して、真のお父様のみ言を知ってもらえたことが本当に感謝でした。また、私自身も書写をしながら、「父、母が書写を通してみ言を学ぶようになり、既成祝福を受けられますように」と精誠を尽くして祈り続けました。そして他界した祖母をはじめ、絶対善霊となった先祖の皆様へ霊界からの協力をお願いしました。

両親が健在な時に、祝福を受けてもらうことが親孝行であると確信していましたが、「今回の祝福式は無理かも。だから次回に」という不安な思いがよぎりましたが、「今が時なんだ！」と感じ、娘と話し合っって両親に対してどのようにするか計画を立てました。

ある日、両親に仏壇の前に座ってもらい、娘と2人で敬礼を捧げながら「いつもありがとうございます。お世話になります。これからもよろしくお願ひします」と感謝の言葉を伝えた後、7月20日の祝福式の話を持ち出しました。

娘から「天国という漢字は、二人の国っち、書くやろ？ じいちゃん、ばあちゃん、一緒に天国に行きたい？ そのために、結婚式をもう1回あげて祈ってもらえるけん。7月20日一緒に行こうなあ」と話しをすると、両親は参加すると言ってくれました。

参加が決まり、母は最初「白っぽい服装がいい」と言っていたのですが、「せっかくだから、ウェディングドレスを借りてくるから、着てみたらいいよ」と言うと、母もり気で、「恥ずかしいなあ」と照れながらも、嬉しそうな表情を浮かべていました。

祝福式当日、ヘアセットをしてもらい、ウェディングドレスにはじめて袖を通した母は、とても感激して喜んでいました。「ちゃんと写真をとっちゃってなあ。姉ちゃんに見せるけん！」と明るくはずんだ声でした。乙女のようにかわいい母の姿を見ました。

父は普段から物静かで、あまり気持ちを表には出さないのですが、母のドレス姿を嬉しそうに見ていました。

帰りにレストランに寄り、私は「今日はお祝いやけん、私がお馳走するけんね」と言うと、父が「いいよ。お祝いやけん、自分が払うけん」と、お祝いの日をとても喜んでいました。

全て、良き方向へと導かれ、祖母をはじめとした霊界の協力を実感しました。また、周りの方々の祈りの協力があつた事をとても強く感じました。



祝福式に参加したご両親と記念写真に収まる大分教会の大和理恵さん(右端)